

平成 29 年度第 2 回富津市創生会議 会議録 (要旨)

1 会議の名称	平成 29 年度第 2 回富津市創生会議
2 開催日時	平成 29 年 11 月 24 日 (金) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 20 分
3 開催場所	富津市役所 5 階 503・504 会議室
4 審議等事項	総合戦略改定案について
5 出席者名	富津市創生会議委員 (12 名) 稲村 重夫、岩沢 宏幸、櫛田 直也、小泉 敏、 坂田 慶子、佐々木 ゆき江、鈴木 裕士、武次 治幸、 永田 武憲、並木 邦明、橋村 透、早見 秀一  事務局 (9 名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、教育長 岡根 茂 総務部長 白石 久雄、総務部参与 池本 幸司、 企画課長 重城 祐、企画課企画係長 田内 友臣、 企画課主任主事 鶴岡 隆樹、企画課主任主事 牧野 圭吾  事業担当課 (46 名)
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	2 人 (定員 20 人)
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

平成 29 年度第 2 回富津市創生会議 会議録（要旨）

発言者	発言内容
	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p>
武次会長	<p>議題に入る前に、会議の趣旨及び議事進行について、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>本日の会議の趣旨は、前回 8 月の創生会議で議論いただいた総合戦略の改定素案について、その後、市議会への説明及びパブリックコメントを経て改定案を作成したので、改めて意見等をいただくものである。</p> <p>まず、資料 1 の資料について説明する。</p> <p>資料 1 は、総合戦略改定経過である。パブリックコメントを実施したところ、意見は無かった。今後、市議会への説明を経て来月中に改定の決定をする予定である。</p> <p>資料 2 は、前回資料からの変更点である。</p> <p>資料 3 は、現行総合戦略と改定案との新旧対照表である。</p> <p>資料 4、5 は、資料 3 を補足するものである。</p> <p>資料 6 は、改定方針である。</p> <p>以上の資料を基に、今回の改定案について、意見等をいただきたい。</p> <p>また、本日の議事進行については、前回と同様、基本目標ごとに議論いただきたい。</p> <p>以上で説明を終了する。</p>
武次会長	<p>事務局の説明に対し、質問はあるか。</p>
委員	<p>特になし</p>
	<p>会議録の確定について 会長の指名した委員による承認を採用 会議録署名人は下記のとおり 佐々木委員、並木委員</p>
武次会長	<p>4 議題 議題（1）総合戦略改定案について それではまず、基本目標 1 について質問、意見はあるか。</p>
橋村委員	<p>全体的なことだが、各分野の進捗状況、課題等は記載しないのか。</p>
企画課	<p>進捗は前回会議において、平成 28 年度までのものは事業シートで説明</p>

	<p>し議論していただいた。次回会議で当初予算ベースの資料を出す予定であり、基本的に各事業の進捗状況等は事業シートで判断していただきたい。</p> <p>また、住民とともに創り上げたというのが富津市総合戦略の特徴であるが、各事業で住民協働の仕組み作りに苦慮している点が課題である。</p>
並木委員	<p>防災関係で、いざ避難が必要になった場合、避難所等での備品の充足状況はどうか。</p>
防災安全課	<p>備蓄計画に基づき食料、飲料等を備蓄しているが、充足できている状況ではない。今後もトイレ等を含め、計画的に整備を進める。</p>
武次会長	<p>それでは次に、基本目標 2 について質問、意見はあるか。</p>
佐々木委員	<p>交通網について、高齢者の交通事故が多発している中、この地域は高齢者も多く、免許の返納も増えてくると考えられ、その際に交通網の整備が重要と思われる。</p> <p>総合戦略は平成 31 年度までの計画ということだが、現在の交通網の状況はどうか。</p>
企画課	<p>今年 6 月に市民 6 千人を対象にアンケートをした結果、自家用車分担率が非常に高いのが富津市の特徴であり、免許返納の意向はあまりないこともわかってきた。そういった状況等を踏まえ、本年度中に公共交通網形成計画を策定予定であり、現在素案を作成中である。</p>
鈴木委員	<p>数値目標に「これからも富津市に住み続けたい」等と設定しているが、漠然とし過ぎているので具体的なものを設定した方がよい。</p>
企画課	<p>今回は改定が趣旨なので、行政の取組を追記し、抜本的な見直しはしていない。</p> <p>委員の意見も一理あるが、富津市が好きだという指標は重要なものの一つである。次回見直しに向け、各委員からも指標をご提案いただきたい。</p>
武次会長	<p>それでは次に、基本目標 3 について質問、意見はあるか。</p>
岩沢副会長	<p>「富津の自然、歴史、社会の豊かさ活用事業」や「史跡めぐりや郷土史学習等の推進」は関連性があり、市の魅力を幼い頃から教えることは大切なことだと思うので、市の独自性を盛り込み実行してほしい。</p>
教育センター	<p>市の自然、歴史、産業等については、教育課程に則って学習しているところである。また、子どもだけではなく教職員においても、研修を行い、知識を付けさせ、日々の教育の中で富津市の歴史等を学習できるよう引き続き取り組んでいく。</p>

武次会長	それでは次に、基本目標4について質問、意見はあるか。
櫛田委員	外国人の受入態勢強化について、外国人観光客誘致とスポーツ目的の観光客の受入態勢は異質のものだと思うが、それぞれのPR、誘致の考え方はどのようなものか。 どの客層を狙ってどんな施策をしていくのかが大事で、今の表記だと何に力を入れていくのかわかりにくい。
商工観光課	外国人観光客へのPR等については、アフィックの事業でもインフルエンサー招致事業を実施したところであり、今後も引き続き情報発信し、まずは富津市を知ってもらうことを進めていく。 スポーツ客については、ランニング合宿等の需要もあるので、観光協会、宿泊業者等と連携してPRしていく。 委員の意見のとおりターゲットを絞った施策が大事ではあるが、まずは各種セミナー等を活用し、受入側のおもてなし対応等を強化していきたい。
武次会長	基本目標ごとの議論はここまでとする。 次に、全体を通しての質問、意見はあるか。
早見委員	資料3表紙の改定年月の表記について、西暦と和暦の混在表示になってしまったので統一することと、改定年月に加え、策定年月も表記した方がよい。 また、資料編にでも事業担当課の問い合わせ先一覧の記載がある方がよい。
企画課	表記の方法について検討する。
小泉委員	有害鳥獣対策に関連して、漁業でも食害があり、その対策について事業を追加できないか。
農林水産課	水産業においても、魚やカモによる海苔の食害、アカエイやウミグモによるアサリの食害等が発生していることは把握している。総合戦略では農地の多面的事業を記載しているが、水産業にも多面的事業があり、現在も事業を実施しているところである。総合戦略への記載については検討する。
稲村委員	市長あいさつに変更があり、「市民とともに」という表現が多くなっている。パブリックコメントは意見無しとのことだが、それはコメントがゼロだったということか。
企画課	そのとおりである。

永田委員	防災、防犯について、実施には区長に働きかけ、区長がリーダーシップをとってやらないとうまくいかないのではないか。
防災安全課	区長会議等を通じ、その都度伝えてはいるが、自主防災組織率は伸びておらず、それが課題だと認識している。区長の協力が必要であるので、今後も働きかけていく。
榎田委員	特定健康診査の受診率について、受診者数は増えているのか。受診率が上がらないため、現実的な数値で設定したのか。
健康づくり課	受診率は特定健診の計画で既に設定している目標値を記載した。 受診率が上がらないのは人口減少に伴い受診者が少ないという現状がある。なるべく多くの人に受診してもらうために啓発をしていきたい。
榎田委員	受診率であれば、人口減少に伴って減るのは食い違うのではないか。
武次会長	啓発も行っていると思うが、何で受診率が上がらないのかという点はどうか。
健康づくり課	特定健診は保険証を発行しているところが行う義務があり、市では国民健康保険加入者が対象となる。受診率に反映されるのは1年間国民健康保険であり続けることが要件となる。受診率自体は上がってきており、県内9位である。 受診率を上げることだけでなく、重症化を予防し、医療費、保険料が少なく済むように繋げることが大事である。 国の定めた目標値を基に市の目標値を設定し、現状の数値を記載したものである。
榎田委員	子育て、スポーツ、健康づくりといった分野で関連する場合もあると思うが、多部署にまたがる場合に、どこの窓口で相談したらよいのか。
子育て支援課	関連事業が多部署に及ぶ場合は、ターゲットが誰かを絞り、子どもなら子育て支援課、高齢者なら介護福祉課といったところへ相談するのがよい。
永田委員	全般として、地域・民間、市民ができることに分けてあるが、この徹底はどうやってするのか。市の目標、計画を市民一人ひとりが理解しないとできないと思うが、認識してもらう方法はどうか。
企画課	総合戦略策定時にも議論のあったところだが、地域・民間、市民に対し強制をするものではない。 ただし、周知は重要であるので、コンビニや小中学校に置いたり、区に配布したり、様々な方法で引き続き広報を実施し、まず行政に関心を持ってもらう。これの積重ねにより課題を共通化し、できることを取組

	<p>んでいくというのが大切である。効果的な広報について、各委員にも協力をお願いしたい。</p>
高橋市長	<p>委員の意見にもあったように、パブリックコメントで意見が無かったという点も周知が十分でなかったという部分があるかと思うので、これからも広く市民へ周知していきたい。</p>
櫛田委員	<p>日本版CCRCについて、何をやるのかよくわからないが、民間の協力体制等をどういった観点で進めていくのか。また、どこまで検討するのか具体的に決まっているか。</p>
介護福祉課	<p>CCRCとは、高齢者が移り住んで健康な生活を送ることができる地域づくりを目指す取り組みのことであり、行政だけでできるものではない。検討という表現だが、全国の先進団体の情報を収集し、調査研究していくところである。</p>
武次会長	<p>以上をもって議題（１）を終了する。 事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>特に無し。</p>
武次会長	<p>議題（２） その他 続いて、議題（２）その他について事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>特に無し。</p>
武次会長	<p>それでは、以上をもって平成 29 年度第 2 回富津市創生会議を終了する。 最後に、市から何かあるか。</p>
小泉副市長	<p>今後とも市の最重要課題である年少人口減少抑制に向け、総合戦略の着実な実行に取り組んでいくので、引き続き各委員のご協力をよろしくお願いしたい。</p>
	<p>(終了時刻 午後 3 時 20 分)</p>

以上